

韓国の国士、朴正熙の遺言 後編

<韓国5千年の歴史の嘘>

韓国の文化を語る時、慣用句として用いられるのは「5千年の輝ける歴史と文化」である。この5千年とは檀君（だんくん）朝鮮の建国日を起点としたものである。他にも箕子（きし）朝鮮、衛満（えいまん）朝鮮など含まれるが、箕子朝鮮は省く見方もある。天孫と称される檀君が阿欺達（あきだる）の地に樹立した国家を檀君朝鮮又は古朝鮮と呼ぶ。「三国遺事」によれば、紀元前2333年であったという。無論それは神話のことではあるが、その実在についても論争が続いている。

注) 三国遺事

朝鮮半島における現存最古の史書である『三国史記』（1145年完成）に次ぐ古文献ではあるが、由来の怪しい古書を引用するなど、史書としての問題点は少なくない。しかし、三国時代及びそれ以前の朝鮮半島の歴史を記した資料は極めて乏しいということもあって、『三国史記』と並んで朝鮮半島古代史の基本文献として扱われている。

今は紀元前800年頃に実在したという説が強くなっているが、歴史的事実とするには考古学的裏付けが無く、信仰的事実として捉えている。しかし、今も金兩基氏（在日韓国人の演劇学者）は異を唱えている。尚「阿欺達」は、韓国とは何の関係もない遼東半島か山東半島付近の中国領にその存在を求め、韓国の地と信じられている根拠である「三国遺事」とは高麗の高僧「一然（1206～1289）」の手になる私撰の史書である。これによると、天国から檀君の父である桓雄（かんゆう）が人に化けて舞い降り、クマから人になる事を祈り続け女身となったクマ女と交わってできた子供、それが檀君王儉であり、建国の父である。そして1500年後、周の武王が箕子（きし）に朝鮮を与えて支配を委ねたので、檀君は蔵唐京に移り、後に阿欺達に隠れ戻り、山神になった。没した時は1908歳だった。…と。

檀君神話では地上界に天下った半島人の祖、桓雄（かんゆう）は正妻の子ではなく庶子であった。桓雄が地上に降りて交わったのがクマ女で、生まれたのが檀君である。檀君が子孫を残したとも残さなかったとも書いてないので、韓

国人の祖先は混血だとしても、遠い先祖はクマ女と庶子の雑種であるかは不明である。次に朝鮮を支配したのはシナ・周の武王が派遣した箕子（きし）であった。彼は朝鮮を植民地支配したシナ人であり韓国人の祖先とは関係ないであろう。

これらの話が、今の韓国・朝鮮の建国と何の関係があるのか、小生のみならず、全く以て理解できない方が多いのではないであろうか？

朴正熙の自国の歴史観

朴大統領は韓国の民族性を、言動が幼く、感情に流され、極端に走りやすい傾向があると述べている。そして「我々の歴史は、初めから終わりまで他人に押され、それに寄りかかって生きて来た民族である。(中略)。その後の日清戦争と前後した三国の干渉を最後に、日本の単独侵略により、ついに大韓帝国が終幕を告げるまで（日韓併合まで）、この国の歴史は平安な日が無く、外国勢力の弾圧と征服のもとに、かろうじて生活とは言えない生存を延長して来た。」（234P）

実際、韓民族は古朝鮮の時代から支那の植民地支配を受けていた。その後、新羅は唐の力を借りて半島を統一したのであるが、高麗時代は契丹・蒙古の支配を受け、その後も明・清の属国として「生活とは言えない生存だけ」だった日々が、日韓併合によって平安な日々が変わっていった、と彼は言ったのである。

「嘆かわしいことは、この長い歴史の中でただ一度も形成を逆転させ、外へ進み出て国家の実力を示したことがない」ということである。そして何時もこのような侵略は、半島の地域的運命とか我々の力不足の為に起こったのではなく、ほとんどは我々の招き入れたようなものになっている。また外圧に対して、我々が一致して抵抗したことが、無かったわけではないが、多くの場合敵と内通したり、浮動する連中が見受けられるのであった。（235P）……何時の時代も裏切者がおり、漢民族の党派争いは、「世界でも稀なほど、小児病的で醜いものである」と述べている。その正しさは側近に射殺された、彼の末路が証明している（1979年10月26日、大規模な民主化デモの鎮圧を命じた直後、側近である金載圭情報長官により暗殺された。享年61歳）。その上で次の

如く朴は「彼が愛する韓国と国民」に告げている。

以上のように、「我々が民俗史を考察してみると情けないというほかない。無論ある一時代には世宗大王、李忠武公のような、万古の聖君・聖雄もいたけれども全体的に顧みると、ただ唾然とするだけで真っ暗になるばかりである。我々が真に一大民族の中興を期するなら、先ずどんなことがあっても、この歴史を全体的に改新しなければならない。このあらゆる悪の倉庫のような我が歴史は、むしろ燃やして然るべきである」(236P)

注1) 世宗大王

朝鮮王朝（李朝）第4代の国王（在位 1418～1450）。朝鮮王朝第一の名君と言われる。土地制度の改革、農業技術の向上に努め、朝鮮の儒教を保護し、また学問を奨励した。その最も有名な事績が朝鮮独自の文字である訓民正音（ハングル）の創出である。世宗は現在も国民的な人気が高く、韓国では1万ウォン札にその肖像が用いられている。



注2) 李忠武公

李 舜臣。李氏朝鮮の将軍。文禄・慶長の役において朝鮮水軍を率いて日本軍と戦い活躍した。韓国では救国の英雄とされる。露梁海戦で戦死。死後に贈られた諡が忠武公。旧 500 ウォン紙幣に肖像画と亀甲船が描かれている。



何故、彼はこのような史観を持ったのか、巷に溢れる「韓国の歴史」を読んだだけでは理解できないのではなかろうか？ それらは真実から目を背け「輝ける歴史と文化」などちやほやしているだけだからである。このおバカな日本人に対し、崔基鎬（さいきこう）氏は警告している。「日本国民の大多数が隣国である韓国の歴史について全く知らない」。日本では善意から日韓親善や日朝友好を願っている人もいるが、それらの人に対しても隣国の歴史について無知であり、(中略)、自分を満足させるものでしかない。これはむしろ韓国にとっても、日本国民にとっても危険なことである（韓国墮落の2千年史）。その上で、崔氏は悪の巨魁、中国を念頭に「韓国が真似しなかった中国の悪習は『てん足』と『食人』だけ」と断じたのである。ではそれはどの様なものなのか、中韓の歴史を垣間見るだけで、朴の歴史観が理解できると思う。中国・韓国・朝鮮には宦官が多くおり、漢民族は宦官もシナに献上していた。日清戦争に勝った日本は、これを止めさせ、1910年の日韓併合を機に宦官そのものを禁止したのである。

注) 崔基鎬

韓国の加耶大学校客員教授。巣鴨高等商業学校（現在の千葉商科大学）卒業。

- * 日韓併合で搾取されたのは日本。日韓併合なくして朝鮮半島の近代化はなかった。
- * 韓国、北朝鮮の本当の敵は中国である。
- * 李氏朝鮮は隷属国家であり、北朝鮮は日本時代の遺産をすべて壊し、李氏朝鮮の時代に戻っている。
- * 日本はもう謝罪する必要はない。
- * 日本は明治時代の武士道を覚醒させて、しっかりと韓国と手を組んで中国と対処してほしい。

等々を主張している。

孔子から始まった儒教は「身体髪皮膚これを父母より受く、敢て毀傷せざるは孝の始めなり」と教えつつ宦官を続けた中韓の偽善性が見て取れる。また中韓には残虐な刑罰があり、今も中国人はチベット人やウイグル人に対して行っている。彼等の微笑みと儒教は、彼等の強欲と残虐性を覆い隠す「ウソ」のベールであることを知る必要がある。てん足は大人になっても10センチ程度で、実は女性が逃げられないようにしたもので、中国の女性物品化を詭弁で騙す恐ろしいものであった。

崔基鎬氏は中国人の食人についても記している。中国の歴史は、同じ人間を

食べ、周辺の諸国を欲しいままに侵略して、人を喰い散らした長い間の救い難い「食人」の習慣があった。(97P) ……と。実は韓国人にも食人習慣があり、親孝行の息子が自分の尻や大腿の一部を切り取り食べさせた話、他人を殺して肝を抜き取り売りさばいた話などが「朝鮮王朝実録」に載っている。中国の食人は本格的であり、孔子はヒトの死肉を食べていたとされ、正確には中国人は食べる目的でヒトを殺し、今も食べている。(文系ウソ社会の研究)(255P)

このような韓国の歴史を知っていたであろう朴が自国の歴史を「あらゆる悪の倉庫のような、燃やして然るべき」と断じたのは当然であったろう。では彼が射殺された後、何故韓国では彼のような全うな歴史観が消えてしまったのだろうか？ それは「あらゆる悪の倉庫を燃やしても残痕ともいうべき歴史的事実を自覚したくない根をもつこの国と国民には『歴史の改新』が出来なかったのであろう。歴史の地下残根とは何か、そしてその残根を掘り起こして白日の下に曝すのはシンドイ作業であり、多方面から科学的・論理的に根拠を持って論じ、歴史的事実を謙虚に受け止める民族意識がない限り、正しい歴史認識は無理だろう。

また捏造された被害者意識が、己や自国を辱しめている事さえ自覚しない鈍感さと厚かましきは「性奴隷」という嘘を広めようとしているが、その内にこの嘘悲話は暴かれるだろう。世界は薄々、嘘を感じているらしい。(ケント談話)

歴史とは、反省と知恵の学問であるべきだ。その立場から韓国の歴史教科書等は、事実は書かれていない。今のままでは韓国のみならず、日本の学者やマスコミは日韓両国に真実を知らせていない。今のままでは何年経っても目隠しされた両国の人々は、真実を知ることはないだろう。小生の敬愛する司馬遼太郎は言うに及ばず、山本七平等も何ら究明することなく、歪められた歴史を受け入れ、迎合し、真実を隠し、日本人と韓国人に真実を知らせず、韓国人の自己批判の機会も奪い、嫌韓感情を固定化させてきただけだった。これは日韓を割く謀略ではないかとの疑問を持つ者も居る。彼等は「韓国人は愚かで子供同然な故に、おだてておけ」と見下し、甘やかし、誤った歴史認識から抜け出せないよう増長に任せて来たが、「賢明な朴正熙はこのことを感じ取り、拒否し、韓国人に反省と自己批判を求めたのである」。

わが愛する祖国と国民は、日本人や同胞によりスポイルされていることを自

覚し、小児病的歴史観から決別するべきだ。そして退嬰と粗雑と沈滞の5千年の歴史を燃やし尽くし、病根たる歴史の深層を直視し、自省して生きていかねば、更なる危惧を世界に与えるであろうことを、愛国者の朴は心配したのであろう。日本も彼の意志を汲み取り尊重する、対半島政策を取るべきであろう。その為にも我々は韓国の発する、対日歴史観の歪み間違いを論破する必要がある。韓国の教科書にある「七奪」は徹底的に論破し、反日感情から日韓相互理解の道を探ることが朴正熙の意志に報いることになろう。

平成29年年6月25日

志雲会代表 有馬正能